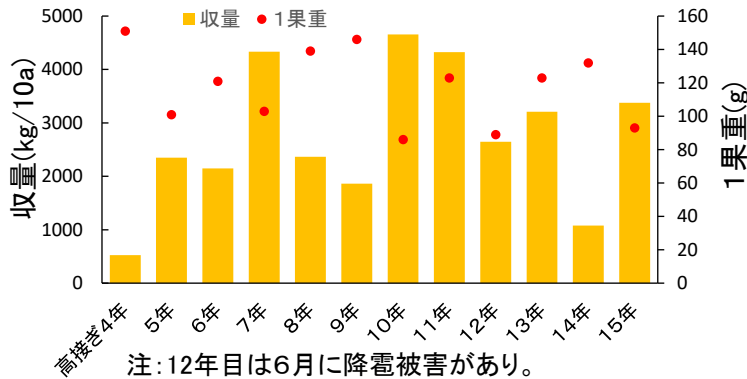


# ‘媛小春’の安定生産対策

強樹勢のため着果がやや不安定であるが、高接ぎ4年目頃から結実し始め、樹が落ち着いてくると適正な結実管理により連年生産が見込まれる。

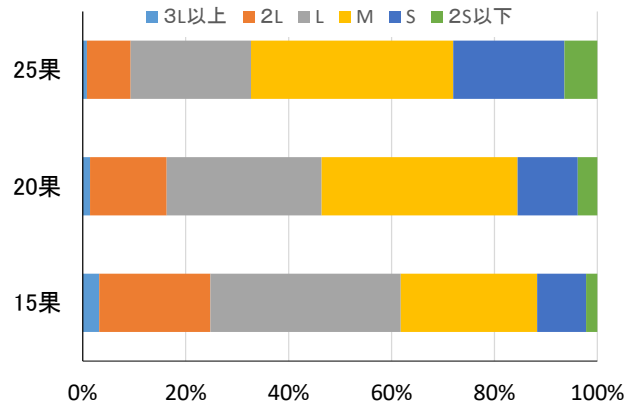
## 収量

樹が落ち着いてくると、適切な結実管理により連年安定生産が見込まれる。



## 結実管理

8月のあら摘果で全体の50%程度を摘果し、9月中旬に1m<sup>3</sup>当たり15果程度に摘果することで大玉果生産できる。



## 開花時期別の果実品質

開花の遅い花は小玉で酸が高い。開花の早い花は奇形果が多く結実率も低い。

開花時期	1果重 (g)	糖度 (Brix)	クエン酸 (g/100ml)	奇形果 (%)	結実率 (%)	
ヒリュウ台	初期	113	13.2	1.41	17.7	9.8
	盛期	101	13.2	1.41	1.7	32.4
	後期	92	13.1	1.70	3.0	19.6
カラタチ台	初期	111	12.6	1.30	18.5	10.8
	盛期	104	12.6	1.45	1.1	41.4
	後期	86	12.6	1.92	0.0	14.4

平成26,27年の平均値

## 台木

ヒリュウ台木を用いると、樹の生育が緩慢となり、果実品質が向上。

	樹容積 (m <sup>3</sup> )	収量 (kg/m <sup>3</sup> )	1果重 (g)	糖度 (Brix)	クエン酸 (g/100ml)
ヒリュウ台	10.7	3.3	129	12.3	1.05
カラタチ台	13.7	2.2	142	11.3	1.30

※8年生露地栽培

平成28年1月6日収穫調査



カラタチ台

ヒリュウ台



果頂部の奇形

- 果梗枝の太い上向き果・奇形果を中心に摘果する。
- 結果枝葉5枚以上の単生有葉果を主体に残す。
- 葉裏に着果が多く、仕上げ摘果は9月以降に行う。

## 加温栽培

2月上旬から5月下旬まで夜温15°Cで加温栽培を行うと、年明けに完熟果を出荷することが可能。

	糖度 (Brix)	クエン酸 (g/100ml)	完全着色率 (%)
ヒリュウ台	12.8	0.94	76.0
カラタチ台	11.7	0.87	68.2

1月上旬収穫

## 時期別糖度の目安

9月30日	9.8
11月10日	10.3
12月20日	11.7

1月30日に糖度12以上